

令和 5 年 2 月 22 日

教 育 長 様

研究コース
A グループ研究A
校園コード (代表者校園の市費コード)
701571
選定番号
148

代表者	校 園 名 :	大阪市立茨田南小学校
	校園長名 :	宇野 多加志
	電 話 :	6 9 1 1 - 2 0 0 1
	事務職員名 :	奥田 明香里
申請者	校 園 名 :	大阪市立茨田南小学校
	職名・名前 :	主務教諭 小林 好美
	電 話 :	6 9 1 1 - 2 0 0 1

令和4年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和4年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	継続研究 (3年目)
2	研究テーマ	プログラミング的思考をはぐくむ学習の創造			
3	研究目的	<p>学習指導要領には、情報活用能力の育成を図るために「児童がプログラミングを体験しながら、コンピューターに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けさせるための学習活動」を各教科等の特質に応じて計画的に実施することが明記されている。</p> <p>本校では、平成30年度よりプログラミング学習を一部の学級で先行的に実施し、一昨年度より、本事業による支援をいただき、全学年でプログラミング学習に取り組んできた。</p> <p>その研究の成果として、昨年度、「プログラミング学習系統表」「プログラミング学習年間指導計画表」を作成することができた。</p> <p>そこで、今年度、継続して「がんばる先生支援」をいただき、プログラミング学習に取り組むことにより、昨年度作成した「プログラミング学習系統表」「プログラミング学習年間指導計画表」の効果検証を行い、より良いものとなるよう充実発展させていく。</p> <p>あわせて、本研究の取組みを通して、教員のプログラミング教育に対する指導力を高めるとともに、児童のプログラミング的思考力・論理的思考力の育成を図っていく。</p>			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。(MSコシッパ 9.5ホイント)</p> <p>昨年度に引き続き組織的に取り組むため、「プログラミング教育推進委員会」を発足した。委員会メンバーは、学年代表1名とプログラミング教育推進リーダーで構成し、9名が中心となって研究に取り組んだ。</p> <p>まず、実態把握および変容を把握するために教職員と児童を対象に意識調査を実施した。教員対象の意識調査は、Teamsを活用したアンケート調査とインタビュー調査の2つの方法で実施した。教員の困り感が改善されるように研修会や授業実践交流会の内容を検討し実施した。</p> <p>次に、教員が、主体的に授業実践に取り組めるように環境整備に努めた。</p> <p>具体的には、プログラミング教育推進委員が、研修会の主担者となって、授業実践のあるプログラミング教育の研修会を立案、実施した。推進委員の3名は、研究授業等においてもプログラミング教育に取り組み、学年団としての授業実践の質の向上に尽力した。各学年においては、令和3年度作成の年間指導計画表を活用し、授業実践を重ね年間指導計画表の検証に取り組んだ。授業実践交流会を通して、系統性や年間指導計画表の妥当性等についても議論し、PDCAサイクルを意識しながら、授業実践を重ねより良い授業実践の改善に努めた。</p> <p>プログラミング学習のアンプラグド (フローチャート)、ビジュアル系プログラミング (スクラッチ・ビスケット)、プログラミングロボット (コーディロッキー) を組み合わせ、学年の発達段階に留意しながら、プログラミング教育を推進した。</p> <p>全市に向けた公開授業に取り組み、大阪教育大学教職大学院 寺嶋浩介 准教授による講演会を持つことができた。これにより、教職員の知識・技能の向上が期待でき、授業実践における質的向上に繋がったと考える。</p>			

5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。				
		日程	令和 5 年 2 月 14 日		参加者数	約 28 名
		場所	本校 5 年 1 組教室・多目的室			
		備考				
6	成果・課題	大阪市教育振興基本計画に示されている、 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u> について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。				
		【見込まれる成果 1】 発達段階に応じた「プログラミング学習系統表」「プログラミング学習指導計画表」に再編成する。 《検証方法》 「プログラミング学習系統表」「プログラミング学習指導計画表」を作成・提出する。 〔検証結果と考察〕 令和 3 年度作成の年間指導計画表を検証し、学習指導要領の必修単元に加え、教科学習においてプログラミングの思考が育める学習活動を研究し、本校の実態に即した「プログラミング教育年間指導計画表」を作成した。プログラミング教育推進委員による授業実践の質的向上に加え、学級担任によるプログラミング教育の授業実践の充実が求められていることが分かった。				
		【見込まれる成果 2】 プログラミング学習の研究に取り組むことを通して、児童の論理的思考力が高まる。 《検証方法》 学校生活アンケート（児童）「いろいろな教科で順序や手順を考えて問題を解決していますか」の肯定的回答を 7 5 %以上にする。 〔検証結果と考察〕 学校生活アンケートでは、肯定的回答は 6 5 %であった。このことから児童は、プログラミング学習を通して、自分の意図する動きをさせるためには、順番に指示を与え、簡単な命令が必要であるというプログラミングの思考を高めることができたと考える。しかし、期待した成果に達成していないため、継続して研究していく必要性がある。				
		【見込まれる成果 3】 プログラミング学習の研究に取り組むことを通して、教職員の指導力が向上する。 《検証方法》 学校生活アンケート（児童）「あなたは、授業がよくわかりますか」の肯定的回答の割合を 8 0 %以上にする。 〔検証結果と考察〕 学校生活アンケートでは、「授業がよくわかる」と肯定的に回答している児童が 9 1 %であることから、教員の授業力の向上が見込まれたと考えられる。研究授業においてプログラミング教育に取り組んだ教員が 3 名、全員授業においても 2 名が取り組んでいることから校内におけるプログラミング教育が推進されていると言える。				

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】 プログラミング学習の研究に取り組むことを通して、児童の論理的思考力が高まり、学力が向上する。</p> <p>《検証方法》 大阪市学力経年調査の標準化得点が前年度より向上する。</p> <p>〔検証結果と考察〕 6学年児童においては、令和3年度に引き続き令和4年度の学力経年調査の標準化得点は、5教科すべて大阪市平均より上回っていた。5年生以下においては、上回っている教科がないことから、継続して取り組むことが求められている。</p> <p>【見込まれる成果5】</p> <p>《検証方法》</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>【研究全体を通じた成果と課題】 具体的に記載してください。</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育推進委員会の設置により組織的に取り組むことができた。 ・計画的に「研修会」「研究実践交流会」に取り組むことができた。 ・全学年においてプログラミング学習に取り組むことができた。 ・教材研究、授業実践に関する交流の場を通して教職員の知識・技能の向上が図られ、指導力向上に繋げることができた。 ・3年生と5年生において研究授業に、全員授業では、2名の教員が取り組んだ。 ・児童のプログラミング学習に対する意欲の向上が図れ、プログラミング的思考力の育成が期待できると思われる。 ・本校における発達段階に留意した「年間指導計画表」を作成することができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科学習におけるプログラミング教育の研究を深める。（アンプラグド、ビジュアル系プログラミング、ロボットプログラミング）を効果的に組み合わせた授業実践の改善を目指す。 <p>《代表校園長の総評》 コロナ禍が続く中「がんばる先生支援」を受けることで、勇気をもって研究に取り組み、児童・教員の学ぶ意欲の向上が感じられた。継続研究3年目となったが、担当者は2年目で、昨年度にプログラミング教育推進委員会を整備し、本年度は年間を通じて計画的に運営ができ、ひとつの方向性をもってプログラミング学習の授業研究ができてきた。推進委員中心の校内研修会も教員が積極的に参加し教員の授業力、プログラミングロボット、ツールの活用能力も向上した。児童の学びを保証し、学力の向上をめざして、今後も継続して「プログラミング的思考を育む学習」の研究を進めていきたい。</p>
---	-------	---